

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 8 月 15 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (8/15 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m ³ /h	32.4	106.6 kPa abs	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m ³ /h	43.4	12.25 kPa g	A系： 0.04 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m ³ /h	42.1	0.25 kPa g	A系： 0.08 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.09 vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (8/15 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	31.0
2号機	循環冷却システム	運転中	29.6
3号機	循環冷却システム	運転中	28.5
4号機	循環冷却システム	運転中	37

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	8/2 10:28 ~ 移送実施中

7/16 13:00 ~ 5, 6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5, 6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5, 6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエリアタンクへ移送を開始。なお、本移送は8月下旬までの日中時間帯に行う予定。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (8/15 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。なお、6/15に発生したバッチ処理タンクからの水漏れの対応のため、ホット試験を中断中。8/6、多核種除却設備A系の吸着塔(6A)の吸着材を抜き取り、内部点検を行ったところ、フランジ面のすき間腐食と、吸着塔内溶接線近傍に腐食に起因すると推定される変色を確認。今後、腐食が確認された原因および影響範囲を評価するため、継続して調査を実施。

- ・H25/6/13 9:49～ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A～C)のうちB系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。
- H25/8/8 12:55～ 6/15に多核種除去設備A系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在A系で実施している腐食防止対策をB系でも実施するため、同設備B系を停止。

< 5. その他 >

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5,6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/7/9 10:25～ 1号機サプレッションチェンバ内残留水素の排出、およびサプレッションチェンバ内の水の放射線分解による影響を確認するため、サプレッションチェンバ内への窒素ガス封入を再開。
- ・H25/7/25～ 3号機原子炉建屋1階において、遠隔操作重機によるがれきなど障害物の撤去作業を実施。
- ・H25/8/12 15:10頃 福島第一原子力発電所登録センター休憩所にて休憩をしていた協力企業作業員が体調不良(頭痛、吐き気)を訴えたため、入退域管理棟救急医療室にて点滴等の処置を受けていたものの、回復傾向がみられないことから、医師により緊急搬送の必要があると判断され、同日 16:00 頃に救急車を要請し病院に搬送。診断の結果、軽い脱水症と診断され点滴を受けていたが、症状の回復が見られないことから、入院治療を受けていた。
- 8/15 11:00頃 症状が回復したことから退院。なお、当初は軽い脱水症と医師より診断を受けていたが、その後、持病による症状と診断されたことから、今回の傷病発生は作業に起因する症状ではない。

【タービン建屋東側の地下水調査状況について】

- ・1～4号機タービン建屋東側に観測孔を設置し採取した地下水を分析したところ、1,2号機間の観測孔 No.1 において、トリチウムおよびストロンチウムが高い値で検出。今後も引き続き採取分析を行い、監視強化を実施。

トリチウム: $4.6 \times 10^5 \sim 5.0 \times 10^5$ Bq/L (採取日: 5/24, 5/31, 6/7)

ストロンチウム 90: 1×10^3 Bq/L (採取日: 5/24)

- ・地下水観測孔 No.0-1 の水におけるトリチウムの分析結果で高い値が確認されたことから、1号機サブドレン No.1 について 8/5 に採取した水の全ベータおよびトリチウムの分析を実施。また、1号機サブドレン No.2 について 8/5 に採取した水のガンマ核種、全ベータ、トリチウムの分析を実施。

< サブドレン No.1 > 全ベータ 290 Bq/L、トリチウム 110,000 Bq/L

< サブドレン No.2 > セシウム 134 ND (検出限界値: 14 Bq/L)

セシウム 137 20 Bq/L

全ベータ 25 Bq/L

トリチウム 3,200 Bq/L

- ・H25/8/9 14:10～ 1・2号機タービン建屋東側に設置した集水ピット(南)から地下水をくみ上げ、2号機立坑Cへの移送を開始。

- 8/15 11:35～ 1・2号機タービン建屋東側に設置したウェルポイント(バキュームによる強制的な揚水設備)の1箇所(最終的に28箇所設置予定)から地下水をくみ上げ、2号機立坑Cへの移送を開始。移送において、漏えい等の異常がないことを確認。

【移送量*: 8/15 16:00 時点までの立坑Cへの移送量は約 131m³。】

* 集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- ・H25/7/1 に地下貯水槽の汚染水は全て移送を終了しているが、拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。

< 拡散防止対策 >

- ・地下貯水槽漏えい検知孔水(No.1 北東側、No.2 北東側、No.3 南西側)の全ベータ放射能濃度の低下が緩やかであることから、地下貯水槽 No.1～3にろ過水または淡水化装置(RO)処理水(全ベータ放射能濃度: 約 1×10^1 Bq/cm³)を移送し希釈する処置を適宜実施。

最新の希釈実績: 地下貯水槽 No.1 (6/19～) 8/3、約 60m³ のろ過水を注水。

地下貯水槽 No.2 (6/27～) 8/1、約 60m³ のろ過水を注水。

地下貯水槽 No.3 (7/24～) 8/11、約 51m³ の当該地下貯水槽ドレン孔水(北東側)を注水。

- ・8/15 地下貯水槽No.1～3の漏えい検知孔内に漏えいした水を仮設地上タンクへ、地下貯水槽No.1、No.2のドレン孔に漏えいした水を当該地下貯水槽内へ移送する処置を実施。

< サンプルング実績 >

- ・8/14 試料採取分の地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水(14箇所)、地下貯水槽 No.1～4,6の漏えい検知孔水(10箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22箇所)についてサンプルングを実施。分析結果については、前回(8/13)実施したサンプルングの分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。8/7 に採取した地下貯水槽 No. 1～4,6のドレン孔水および漏えい検知孔水についてトリチウムの分析を実施。分析結果について、前回(7/31 採取)の値と比較して大きな変動はない。

以上